

〈英語〉

英語で話す表現力を育む指導の工夫

—— 内発的動機を促すコミュニケーション活動を通して（第2学年） ——

うるま市立あげな中学校教諭 新垣 艶子

I テーマ設定の理由

国際社会の中に生きる児童、生徒にとって、基本的なコミュニケーション能力を身につけることは、とても重要になってくる。中学校学習指導要領外国語では、その目標を「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」としている。また、実用英語技能検定では、平成28年度（2016年）から4級、5級でもスピーキングのテストを実施することになっていて、話す力がさらに求められている。

本校の英語の授業でも生徒が意欲的に話そうという態度は見られるが、それは一部に限られている。話したいけど、どう言ったらいいのか分からないという生徒もいる。ALTや日本人教師とのインタビューテストを10問30点満点で、36名に行った。30点～25点をA、24点～10点をB、10点以下をCとした。その結果、Aが10名、Bが20名、Cが6名であった。毎時間授業の最初で質問している項目なので、3分の2以上がAを取っていてほしい項目である。そして英語に関するアンケートも行った。その中で「身につけたい技能はどの項目ですか」という質問で、7項目の中から2つ選ばせた。その結果「単語の力」「書く力」と並んで「話す力」も25%の生徒が身につけたい項目として選んでいた。このことから、話す表現力を身につける事が、生徒の意欲につながると考えた。言いたいことを伝えるためには、基本的な単語や文法をインプットしていくことが大切である。しかしながら、これまでインプットに力を入れすぎて、生徒の意欲、関心を高めるようなアウトプットの場を工夫することが弱かった。また、十分なインプットが出来ていなく、活動にうまくのれない生徒がいて、個別に指導を行う時間が足りないこともあった。これまで新しい文法を導入した後に、ペアで既習事項も入れた言語活動をさせたり、その文法が入った会話文を使ってビンゴゲームをさせたりしてきたが、きちんとできているか把握することが難しかった。インタビューテストでも一人一人に細かく質問し、指導を行う時間を充分に取ることが難しいという課題が残った。それにより、分からないまま英語の授業が進んでしまい英語嫌いになる生徒が出てきてしまっている。英語で話すことが少しでも出来るようになれば、自信が付き英語嫌いが減ると考える。

英語で話す表現力を身につけるためには、効果的なコミュニケーション活動が行われる必要がある。そのためには、生徒の内発的動機を高める工夫をする必要がある。英語の学習自体に興味があり、楽しんで自ら学習をする態度を身に付ける事が英語の表現力を伸ばす効果的な方法である。生徒のレベルにあっていて実生活に基づいたトピックを選び、自分の言葉で表現したいと感じた時、活発なコミュニケーション活動が行われる。生徒が自信を持って話す活動に取り組むために、間違えてもよいという雰囲気を作ることでも大事である。また充分にインプットをするための継続的な言語活動を行うことも大事である。そのためによりよいペア活動やグループ活動の方法を研究していく。

本研究の評価の課題については、タブレットPCを活用して言語活動を撮影し、教師が後で確認し評価をする方法を取り入れていく。場面によって、文の正確さよりも会話の流れを重視して評価を行うことも大事である。授業の中でも評価の観点を明確に示せば、生徒同士での相互評価も可能である。授業の目標を示すと共に評価の観点もはっきり示すと、生徒の意欲にもつながるであろう。

内発的動機を促すような工夫をしながら、充分に基本的な語彙や文法をインプットさせてから、場面設定をし、効果的なコミュニケーション活動を行えば、英語を話す表現力が身につくであろうと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

話す表現力を身につけることが目標になっている課において、内発的動機を促すような工夫をしながら、会話表現を繰り返し活用させることで、相手の話したことを確認しながら会話を続けることが出来るようになり、話す表現力が育まれるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 話す表現力を身につけるには

(1) 英語で話す表現力とは

中学校学習指導要領第9節外国語 2 内容 (1)言語活動 イ 話すことについては、「(イ)自分の考えや気持ち, 事実などを聞き手に正しく伝えること。(ウ)聞いたり読んだりしたことなどについて, 問答したり意見を述べ合ったりなどすること。(エ)つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話しを続けられること。」としている。話すことにはスピーチもあるが、今回はペア・グループでのコミュニケーション活動の取り組みを行いたいのので、特に(イ)と(エ)の部分を取り上げていく。これまで生徒にコミュニケーション活動を行わせている時に、友達に自分の英語が通じた、友達の言っている英語が分かったというような満足感を見る事が出来たからである。そうすることで学習意欲につながると考えた。本研究では英語で話して表現出来ることの目標を本校のCAN-DOリストに基づく年間指導計画の目標から「相手の言ったことを確認しながら、会話を続けることが出来る。」と設定する。

(2) 英語で話す表現力を身につける過程

第2言語を習得する過程は、まず利用可能な情報を充分に与えられ、学習者が言語構造に気づいて情報を取り込んでいく必要がある。コミュニケーションを図る必要性が生じた時に話したり書いたりされ、間違いが修正されながら習得されていく。白井(2015)は「(1)言語習得はかなりの部分がインプットを理解することによって起こる。(2)明示的知識を身につけた上での意識的な学習は、a.発音の正しさをチェックするのに有効である。b.自動化により実際に使える能力にも貢献する。c.聞いているだけでは気づかないことを気づかせ、(1)の自然な習得を促進する。」と述べている。明示的知識とは他者から教わった知識の事で、自分で気づくことによって得られる暗示的知識と並んで使われる。白井(2015)によると、自動化とは「最初に明示的知識を身に付け、それを練習する事によって、除々に自動的に使えるようにする」事であると述べている。

(3) 内発的動機付けとは

英語を学習する意味が見いだせない生徒がいて、やる気を起こさせるにはどうしたらいいのかというのが授業の中で常に課題である。ポイントを与える、出来たら褒めるなどの外発的動機付けという方法もあるが、学習意欲は長くは続かない。リクルートマネジメントソリューションズのWebサイトには「内発的動機づけは行動要因が内面にわき起こった興味・関心や意欲によるものであるという考え方である。外発的動機付けによって行動をしているうちに、次第に興味・関心が生まれ内発的動機付けへと変化していくこともあると言われる。」とされている。外発的動機付けもしながら、興味・関心がわくように方向付ける方法を考えていく。

(4) 内発的動機付けを促す手順

ドルニュイ(2006)によると、動機付けの各局面は、みんなが楽しく意欲的に活動に取り組める環境を整えることから始まっている(図1)。話す活動に取り組むためには規律を整えることがより求められるので、英語で話す、ペアと協力して行うなど、ルール作りをしっかりとやっていく。その上で、目標、活動内容、方法までを明確にして話す活動に取り組んでいく。話題も生徒の実態に即し、興味の持てるものを選ぶ必要がある。生徒間の学力の差があるので、ワークシートを作成する時など工夫をする。また、コミュニケーション活動を行った後に、振り返りの時間を設け、学習者自身が肯定的に振り返る事が出来るように導く事も大事である。

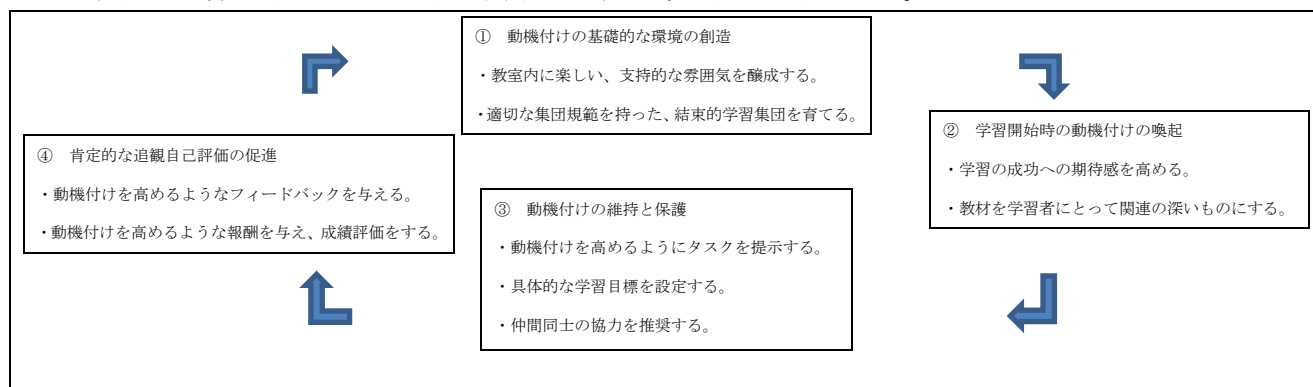


図1 動機付けの各局面

(5) 話すコミュニケーション活動

話すコミュニケーション活動には、インフォメーション・ギャップや、ロール・プレイ、ゲームなどを用いるものがある。どの活動にも言える事だが、ドリル的で意味内容に重きを置かない構文練習にならないように気を付けなくてはならない。コミュニケーション活動では、何らかの情報交換が行われなくてはならない。インフォメーション・ギャップは、お互いが持っている情報を提供しあって目的を達成していく活動である。ロール・プレイは店員と客といったような役割を決めて会話をする活動である。ゲームなどもたくさん種類があるが、年齢、興味、関心にあった活動でなくてはうまくいかない。時には実物を用意し、イメージしやすい状況を作る事も大切である。またコミュニケーション活動後のフィードバックも大事である。この時に表現の間違いや言えなかった単語、発音等を机間指導して確認をする事で正しい表現が定着されていく。

2 活動形態について

(1) ペア活動

ペア活動はこれまでも行ってきたが、どうしてもうまく活動に取り組めないペアもいた。話をしようとしめないペアがいたり、逆に仲が良すぎて関係のないおしゃべりをするなどの問題があった。ルールを守らせ継続してペア活動を行う事で、効果的に話す活動が行えるようになると思う。岡田（2014）の「ペア活動10の鉄則」（図2）に沿って、毎時間の帯活動でペア活動を取り入れていき、基本的な会話文を定着させていく。また、ペアを入れ代えることで、英語が苦手な生徒も得意な生徒から学びながら理解を深めていくことが出来る。Van den Branden（2000）は「能力の低い学習者は高い学習者から多くを学び、一方、能力の高い学習者は低い学習者をサポートしようと努力する中で、自らの能力を伸ばす事ができた。」と述べている。ペア活動を行う時に、英語が得意な生徒を学習のリーダーに育てる事が英語が苦手な生徒を伸ばす事に繋がる。すぐに答えを教えるのではなく、やり方を教えるように促す事も大事である。問題を解いて教師に確認をさせる時などもペアで持ってくるというように習慣付けさせると、ペア活動がよりスムーズに行えるようになる。弾丸インプットというプリントを使って毎時間授業の始めに基本文の定着を図る。弾丸インプットをペアで行う事により、ペア活動の定着も図る事が出来ると思う。

- | | | | |
|-----------|----------------|------------|------------|
| ① 全員参加させる | ② 指示は英語で行う | ③ ルールを守らせる | ④ 教え合いをさせる |
| ⑤ 自信を持たせる | ⑥ ペア活動をゴールにしない | ⑦ 好奇心を利用する | ⑧ 相手を代える |
| ⑨ 徹底的に褒める | ⑩ 定着を図る | | |

図2 ペア活動10の鉄則

(2) グループ活動

グループ活動を行うと学習者個々の発言や活動の機会が多くなり、学習が効率化される。たとえ英語が苦手であっても、相互に協力し合い共同的な学習活動に参加できる。また英語の得意な生徒は教えることによって充足感が得られ、知識の定着強化も図れる。グループで学び合いをするような雰囲気作りが出来ないとうまくいかない。1 グループを何人にするのか、グループは男女別にするのか、何を基準にして分けるのか、リーダーをどうするか、などがグループ・ワーク成否のポイントとなる。また、活動によっては話し合い後の発表者も決めておく必要がある。そして素早く形態を変えることも気を付けるべきポイントである。なぜペア／グループ活動を使うのか、どの形態を使うべき内容か、適切なレベルの内容か、ということを考えて最終ゴールを明確にし、学習形態を選択する。本研究ではグループを4名にし、ペアの会話をお互いで撮影出来るようにし、英語が得意な生徒、苦手な生徒を混ぜて学び合いが出来るように工夫する。

3 評価について

(1) タブレットPCを活用した評価

これまでの言語活動では、全員の活動をしっかり把握することが難しかった。そこで、発表の様子をタブレットPCで撮影し活用する。記録として残せるので後で確認したり、生徒にフィードバックが出来るというメリットがある。これは形成的評価を行うのに適している。授業の最初で生徒にも評価の観点をはっきり示してから活動に入り、撮影した様子を教師が後で評価する。うまく出来た生徒の発表は皆で共有する。それにより発表した生徒の自信につながり、他の生徒の理解度も深まる。帯活動を行っている様子や、コミュニケーション活動を行っている様子を撮影し、「関心・意欲・態度」の評価を行う。新出文法の導入を行った後に自己表現させ、その様子を撮影し「表現」

の評価にいれる。次に会話文を作成し、ペアでの会話の様子を撮影し「表現」の評価を行う。本研究では「表現」の評価を行う時には会話のスムーズさを重視する。

(2) 自己評価シート、相互評価シートを活用した評価

生徒同士が関わり合い、学び合うこともコミュニケーション能力を向上させることにつながるので評価シートを準備し、生徒同士で評価をさせる。相手がしっかり活動に取り組めたかという「関心・意欲・態度」を評価することを伝え、A・B・Cの評価をつけてもらうが、その時の評価規準を細かく示し評価をさせる。この時教えた生徒、また習った生徒にもシートチェックしてもらう。そうすると学び合いの場面も生まれ、学習意欲につながる。これまで自己評価シートをファイルにはりつけ学期の最後にチェックしていたが、確かなフィードバックのためにこれからは、授業の最後に自己評価を記入しながら、振り返りを行う。自己評価を基に次時の最初に復習を行い、フィードバックを行うことで学習意欲につながると考える。毎回の自己評価表では反省や感想の質が高まるように、具体的に何が出来るようになったかなどを書くようにコメントを付けて返していく。

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 New Crown (New Edition 2) Lesson 3 「The Ogasawara Island」

2 単元目標

相手の予定を聞いて理解し、未来形を使って、自分の予定を伝えるなどして、会話を続けることが出来る。

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
《言語活動への取り組み》 未来を表す表現を使った会話の活動に意欲的に取り組んでいる。	新出文法や、これまで習った表現も使いながら会話を続けることができる。	講演資料を読んで、その要点を読み取ることができる。	《言語活動への取り組み》 will や be going to ～などで未来を表す表現に関する知識や、理解がある。

4 指導計画と評価方法

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準、評価方法
1	- 未来形 will の文法を理解する。 - 言語活動を通して未来形 will の文を理解できるようにする。 - 未来形の表現が入った会話文をペアで練習する。	【関心・意欲・態度】 - 言語活動の観察 - 自己評価シートのチェック 【知識・理解】 - ワークシートのチェック
2	- will が入った会話文をペアで練習する。 - ワークシートに未来形を使って自分の予定を書く。 - ワークシートを用いて会話をする。	【関心・意欲・態度】 - 言語活動の観察 - 自己評価シートのチェック 【表現】 - ワークシートのチェック
3	- be going to ～を使った未来形を理解する。 - ドリルや、言語活動を通して未来形 be going to ～の文を理解できるようにする。 - ワークシートを使って、be going to ～の自己表現をする。	【関心・意欲・態度】 - 自己評価シートのチェック 【表現】 - タブレットで撮影して評価
4	- 旅行の計画を立てる会話文の参考例を見て、使えそうな文章の読み方、意味等確認する。 - ペアで旅行パンフレットを見ながら、旅行計画についての会話を作る。	【関心・意欲・態度】 - 自己評価シートのチェック 【表現】 - ワークシートを回収して評価

5	・ lesson 3 part 1、2 の内容理解 ・ 旅行計画の会話をペアで発表する。	【理解】 ・ ワークシートのチェック 【表現】 ・ タブレットで撮影して評価
6	・ I think that～の文法導入 ・ I think that～を使って自己表現 (I think that English is difficult.) ・ ドリル、ノートなどで定着を図る。	【関心・意欲・態度】 ・ 自己評価シートでチェック 【知識・理解】 ・ ワークシートを使ってチェック
7	・ ALT との会話を聞かせる。(I think that～を使って会話) ・ ペアで会話文を作る。(1分間の長さになるように作成する。) ・ 週末の予定を立てる会話文を作る。 ・ 会話文の発表をグループで行う。	【関心・意欲・態度】 ・ 自己評価シートのチェック 【理解】 ・ ワークシートを使ってチェック 【表現】 ・ タブレットで撮影して評価 ・ 評価シートを使って生徒同士で評価
8	・ 世界の天気予報と、ワークシートのリスニング ・ Lesson 3 part 3 の内容理解 ・ ノートや、ワークの問題をペアで解く。	【理解】 ・ ワークシートをチェック 【関心・意欲・態度】 ・ 自己評価シートをチェック
9	・ 未来形の表現や、既習の表現を使って週末の予定を立てる会話をする。 ・ 前時の発表の内容を膨らませる。 ・ グループでよかったものを全体の前で発表する。	【表現】 ・ 相互評価シートを使ってお互いで評価 ・ タブレットで撮影して評価

5 本時の指導（9／9時間）

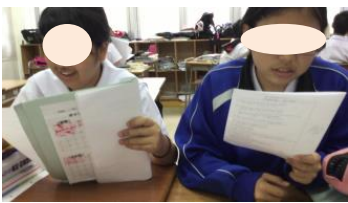
(1) 本時の目標

未来を表す表現（will、be going to～）や既習の表現を使って、ペアと週末の予定を話し合って計画を立てる事が出来る。

(2) 本時の評価（9／9）

評価規準	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)
【外国語表現の能力】 ペア活動において、未来形の表現を使って、相手の予定を聞いて理解し、自分の予定も伝え、ペアとどこかに出かける予定を立てる会話を1分間続ける事ができる。	間違えずに適切な語彙や語句で、自分の事を伝えたり、相づちなども入れながら、相手の話を聞いて1分間会話を続ける事が出来る。	間違えたり、止まったりはするが、適切な語彙で自分のことを伝え、相づちも入れながら、相手の話を聞いて、会話を1分間続ける事が出来る。	相手の話に合わせて会話を1分間続ける事が出来ず、止まってしまう。自分が伝えたい事を適切な語彙を用いて、適切な音量や早さで伝える事が出来ない。

(3) 本時の展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点・評価について
導入 5分	1. あいさつ 2. 学習目標の提示 未来の表現や、今まで習った表現を使ってペアと1分間会話を続ける事が出来る。	・ 既習事項を含む文で日付、天気等を確認して、板書していく。 ・ 目標確認後に、授業の流れを確認する。
展開 10分	3. 帯活動（弾丸インプット）をペアで行う。 	・ 机間指導による個別対応 （教師がタブレットで撮影もしながら、活動を観察する。）

展開 20分	4. 教師から配られたワークシートを使って、ペアで与えられたトピックを基に会話文を作る。トピックは与えらがそれぞれで会話文が作りやすいようにシチュエーションなどは、自由に設定してよいものとする。使えるようなフレーズ等を例としてスクリーンに写しておく。		・スムーズに活動が流れるように、机間指導しながら声かけをする。 ・文を作る時間、練習する時間、発表する時間等を決める。 ・机間指導をしながら、会話文作成をサポートする。
展開 10分	5. ペアで作った会話文を練習して、グループで発表。聞いているメンバーは相互評価をする。また、お互いにタブレットで撮影もする。 6. 良かったところの発表をみんなで見て感想等を述べ合う。		・評価シートを渡して、グループメンバーの発表を評価する。
まとめ 5分	7. 発表の良かった点、改善点等を話し、自己評価シートを記入させる。 宿題の提示		・自己評価シート記入の留意点を述べる。

6 仮説の検証

ペア活動やグループ活動などの内発的動機を促すコミュニケーション活動を通して、英語で話す表現力が身についたかを、授業での生徒の様子やタブレットでの会話の撮影、アンケートの結果を通して検証する。

(1) 内発的動機を促すコミュニケーション活動（会話を作らせる前の取り組み）

楽しく、そしてお互いに学びあう雰囲気を作る事を目標において、コミュニケーション活動を取り組ませた。未来形の表現の導入時に、パワーポイントを使って、有名人やアニメのキャラクターも入れ、興味がわくように工夫した。文法の説明を細かく行わず色々な文章のパターンを示し、文の構造に気づかせるようにも工夫した。そしてグループで教え合いながら取り組むよう伝え、将来やりたい事を2つ書くという課題を与えた。生徒はグループのメンバーにも聞きながら真剣に書いていた。“I will be a cook. I will open my restaurant in the future.”や“I will go to space in the

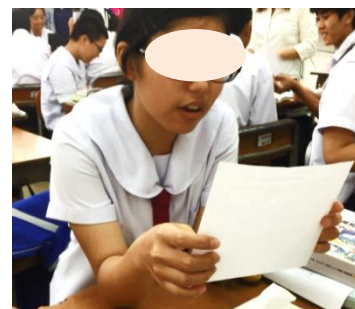


写真1 将来の事を話している様子

future.”など、とても面白い表現を書いていた。その後にタブレットPCで撮影を行った(写真1)。最初緊張している様子であったが、目新しさもあり、意欲的に真剣に取り組んでいた。この時の自己評価シートには「未来形の文がわかった。」「自分の事が言えた。」とあった。次時では、ペアを代え週末の予定を聞いて答える活動を行った。また英語が苦手な生徒にも取り組みやすいようルビを振った文章も裏面に印刷し、どちらを使ってもいいように指示をした。自分のことを話すという活動なので、とても真剣に意欲的に活動に取り組んでいた。しかしペア活動やペアを代えて話をしていくという形式にまだ慣れていないので、活動がスムーズに行われるまで時間がかかり、途中意欲が落ちてしまっているところもあった。しっかり説明をし、生徒に活動を理解させてから取り組まなくてはいけないという課題が残った。しかしペアを代える事で、より多くの人と会話出来るチャンスを得られ、教え合いをする場面も見られた。継続してこの活動を行っていく事で、もっとコミュニケーション活動が活発になり話す表現力も伸びると考えられる。会話で使ったワークシートを回収し、間違いを直して返却し、フィードバックを行う。ドリル等も解かせ、さらなる基本文の定着を図った。この取り組みが次の会話文を作成することにつながっていった。

(2) 内発的動機を促すコミュニケーション活動（会話文を作らせる取り組み）

旅行パンフレットを用意して夏休みの旅行計画を作らせた。実際にパンフレットを用意することで活動を行う意欲につなげる狙いであった。ワークシートの左側には例文を載せ、右側にはかっこ穴埋めの形式で文を作らせた。ほとんどの生徒は、とても意欲的に楽しそうに取り組んでいたが、自分が行きたいところのパンフレットではなかったり、文を作るのが難しいと感じて活動の手が止まっている生徒もいた。自分が行きたいところでいいという指示を出すと、ペアと相談をしながら会話文を作成していた生徒もいた。しかし教師の机間指導の手が離れると文を作れない生徒もいた。

プリントにもたくさんヒントの文や単語を載せていたが、活動の前に充分にインプットを与える事で活動がもっとスムーズに行われたと思う。1時間の中で終らせる事が出来ず、次の時間に発表という形になった。発表では、ほぼ全てのペアが1分間会話を続けて行う事が出来ていた。

週末の予定をペアで話し合っ決めてようというトピックを与えた。まずは2人で3～4行程度の文(図3)を作らせ発表をさせタブレットPCで撮影した。この時は、割と短めな文だったので、ほとんど全員が会話文を作って発表する事ができた。2回目の会話文作成の取り組みだったので、前回より取り組みがスムーズであった。旅行の計画を立てる活動よりは文も短く、簡単な表現で言える部分が多かったので、英語が苦手な生徒もグループメンバーに聞きながら真剣に取り組んでいた。次時ではその文をさらに1分程度の長さになるように膨らませるという作業を行った(図4)。質問を付け加えたり、相づちを入れたりして前回の倍の長さで会話文を作ることが出来た。図3の時15秒であったが、図4の時で40秒という伸びであった。目標の1分間には届かなかったが、他のペアも同じように30秒～40秒くらいの会話を続ける事が出来ていた。この時は右側にヒントの文や単語を載せ空欄が左側というプリントと、図5のように、カッコを埋める形式で指示も書かれた取り組みやすいプリントの2種類を用意した。時間が足りずタブレットPCでの撮影の発表まで取り組めたペアは、12ペア中6ペアであった。全ペアの撮影までは出来なかったが、会話文を作成する事が出来たペアも入れると10ペアであった。指導案ではまとめとして良かったペアの動画を見るところまで計画していたが、そこまでは行えなかった。活動に入る前にもっと動機付けを促すような細かい説明を行っていたら、さらにスムーズに活動に取り組んで発表まで行えるペアが増えたと思う。今回「自分が言いたいことを表現する」という課題に取り組ませていたので、辞書も常に手元に準備した。これまでは、分からない表現やどう言ったらいいのか分からない時にはすぐに質問をしていたが、辞書で調べるように促した。しかし英語が苦手な生徒にとっては難しい課題であるので、あまりやる気が起こらず、おしゃべりをしてしまうという場面も見られた。

検証前のアンケートでは、興味のある話題を書く欄に「ゲームとかしたい。」などとしか書かれていなかったが、授業後には、「アメフトについて話したい。」とか「好きなスポーツについて話したい。」等書かれていた。コミュニケーション活動の授業をして、活動に興味をわいた事の現れであろう。次の活動のトピックの参考にしていく。以上のことより、関心・意欲がわくような身近なトピックを与え、使えるフレーズなどのヒントを与えると、ほとんどの生徒が会話文を倍の長さにして言えるようになっていた。

(3) ペア活動、グループ活動

最初は番号順に座らせ、隣どうしでペアを組ませた。英語でなるべく指示するように努めたが、難しいところは日本語でも説明した。ペアやグループで学び合いしてほしいと思い、自己評価シートやワークシートに、質問をした友達の名前、また質問に答えてくれた友達の名前を書いてもらい、

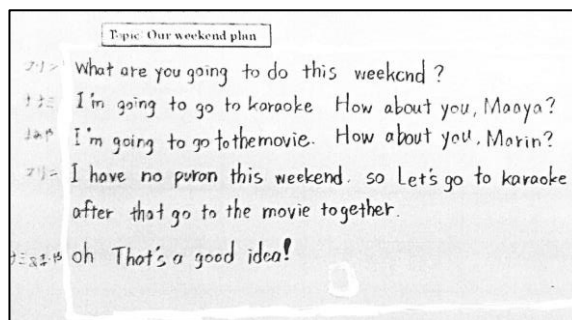


図3 週末の予定を立てよう(ショートバージョン)

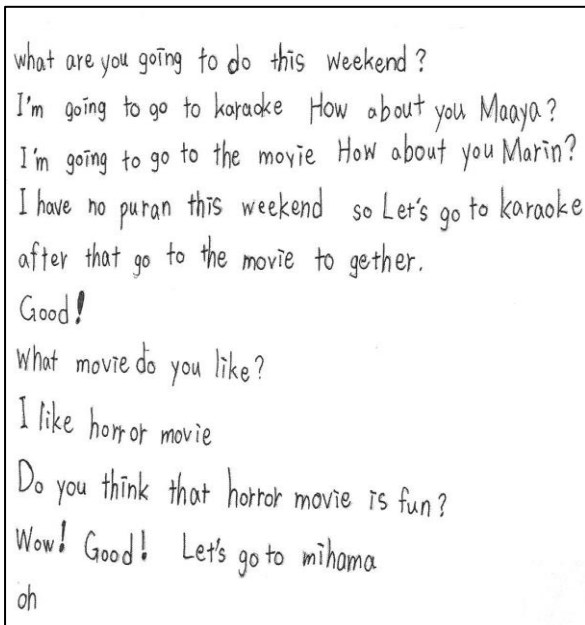


図4 週末の予定を立てよう(ロングバージョン)

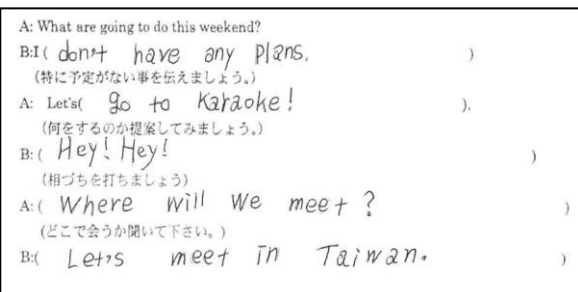


図5 かっこ穴埋め、指示有りのワークシート

それも関心・意欲の評価に入れた。また活発な学び合い活動が行われるようにこの評価シートに名前が出てきた生徒そして何回出てきたか等も生徒に示した。英語が苦手な生徒の名前が質問をした方と答えた方両方に名前が書かれていたので、それを載せる事により自信につながるとも考えた。最初よりはお互いに教え合って協力して取り組んでいる様子が段々と見られるようになってきた。また基本文の定着を図るためにペアで問題を解かせ、一緒に教師のところに持ってきてチェックを受ける事も徹底させた。グループは4名で組ませペアの会話を別のペアが撮影し評価できるようにした。そして全員が各グループで発表し、タブレットP Cに撮影をするという形を取った。しかしグループ活動を減らしてほしいという意見があったので、グループメンバーを代えて、女子同士男子同士にした。女子のところはお互いに協力しながら取り組んでいる様子が見られたが、男子のグループでしっかり取り組めていないグループがあった。9回という限られた中での取り組みであったので難しかったが、男女、英語が得意な生徒、苦手な生徒を混ぜて学び合いが出来るようなグループ作りを目指していきたい。そのためには生徒にもっとグループ活動の意義を理解させ、英語が得意な生徒にはグループリーダーになってもらうために、すぐに答えを言うのではなく、なぜそうなるのかを説明出来るようになるように育てていく必要がある。

(4) タブレットP Cを使った授業

最初は、撮影者も慣れておらず撮影をしている生徒の話し声が入っていたり、発表者の声が小さかったりして、うまく撮れていなかった。しかし上手に撮れているグループの発表を見せ、発表の注意点を示すと段々と上手に撮影できるようになっていた。発表の様子を後で見て評価でき、長時間使って発表を行わなくてよく、次の活動に移る事も出来るのでとても良い。また同じトピックで短いパターン、長いパターンと2回撮影し、撮影時間も表示され比較しやすく、間違いを確認してフィードバックすることも出来るので、今後も活用していきたい。発表だけでなく授業の最初の帯活動の様子も、関心・意欲・態度の評価に入るという話もして撮影したり、言語活動の様子も撮影して後でそれを見て評価をすることも行った。撮影するとある程度の緊張感があり、真剣に取り組む様子が見られた。課題としては遊びで映されている映像があったり、映りたがらない生徒がいたことである。今回の限られた時間の中では、タブレットP Cの使い方の注意をする時間を設ける事ができなかったが、やはり時間を取る必要があると感じた。映りたがらなかった生徒も顔を映さないということでようやく撮影することができた。記録に残しておけることで、学習の過程もしっかり評価をすることが出来るのでとても良いと感じた。またI C Tの活用は活動に興味を持たせる事にも効果があるので、継続することで表現力の伸びにつながる。

(5) 自己評価シート、相互評価シート

自己評価シートを毎回行う活動に合うように作成した。本時の授業目標だけでなく評価の観点を黒板に書いて意識させた。また質問した友達、質問に答えた友達という項目も設けて名前を書かせた。よく話しをする仲の良い友達の名前だけでなく、あまり普段話しをしないけれど同じグループになったメンバーの名前なども書かれていた。途中で、グループを活動を行いやすいメンバーに代えた。

授業の感想などの欄に最初は「良かった」「しっかりできた」「分からなかった」など1言ですませていた(図6)。しかしアドバイスをすると、図7のように細かく反省感想等を書く事が出来るようになっていた生徒もいた。海外旅行のパンフレットを使って会話文を書かせた時の感想で「実際に行きたいと思った。」と書いていた生徒がいたり「自分の週末の予定を言えたので良かった。」と書いていたので、内発的動機付けの面で効果があったと言える。

相互評価は、発表の時にタブレットP Cで撮影しながら友達の評価をするというのが難しかったようで、しっかり評価を書いて提出まで出来たペアが少なかった。また提出されているシートでも、

図6 アドバイス前の自己評価のコメント

図7 アドバイス後の自己評価のコメント

全てAに○をしてコメント欄には「良かった」という書かれ方をしていたので、もっと評価の仕方を説明して、回数を重ねていくと上手に適切に評価することが出来るようになると思う。そしてお互いに高め合えるようになると思う。

(6) アンケート結果から

英語の技能の中で最も自信がある項目ということで7つから選ばせた。自信がある項目図8では「話す力」が0%だったものが10%に上がっていたので、話す活動に取り組んだ事で自信をつけた生徒が出てきたと考える(図9)。「聞く力」が18%から32%に伸びたのもペアが話したことを理解できたからということであると考え。

話す活動において必要な項目を選ぶ質問では、検証前が「リスニング力」が30%、検証後が29%とほぼ同じであった。「単語力」は検証前が28%検証後が25%で、この2項目が一番多く選ばれていた。今後リスニング活動、単語のインプットにも力を入れて指導していくことで話す表現力に結び付けられるように取り組んでいく。興味深いのは「度胸」という項目を選んだ生徒が4%から17%に増えていたことである。活動を行ってみて必要だと感じたのだと考える。

英語の授業でがんばっていることという質問で項目を7つ設け2つ選ばせた。「話す」活動の伸びを期待したが、検証前と同じ13%であった。注目したのは「書く」活動が10%から23%に伸びた事である。話す前に自己表現を書かせる活動を取り入れた結果であると思われる。

最後に「話す活動は定期テストに結びつくと思いますか」という質問をした。「そう思う」「ややそう思う」を合わせて74%であった(図10)。話すコミュニケーション活動を肯定的にとらえている生徒が多いという結果であった。今後も内発的動機を促すように身近な話題を取り上げ、コミュニケーション活動を行っていこうと思う。また活動を行った後の定着を図るための取り組みも大事である。書かせた文を覚えさせて小テストを行ったりALTと会話をする事で、さらに話す表現力が定着されていくと考える。

(7) 期末テストの結果から

今回、自己表現活動に力を入れてきたので、期末テストの最後に未来形を使ってこれからの予定について書かせた。willを使って書く問題では14名中6名が正解、5名が部分点、3名が不正解であった。またbe going to~を使って予定を書く問題では9名が正解、3名が部分点、2名が不正解であった。最後の自己表現でこれだけ書ける生徒が出てきたのは、話す活動の前に書く取り組みを行った成果であると考え。

基本文を覚える取り組みを、弾丸インプットを使ってペア活動を毎時間行っていた(図11)。並べ替えの問題でIt will not be hot tomorrow. という文は、14名中9名が正解で、上記の弾丸インプットにも載っており、良く出来ていた。しかし、同じく弾丸インプットに載っている文What are you going to do this weekend?という文では正解が14名中3名であった。長い文であること

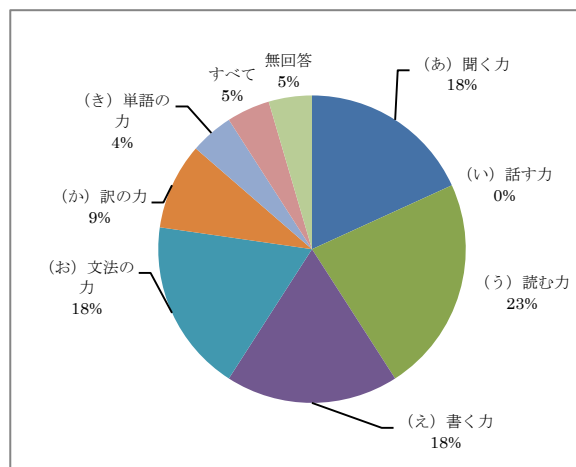


図8 英語技能の中で最も自信がある項目（検証前）

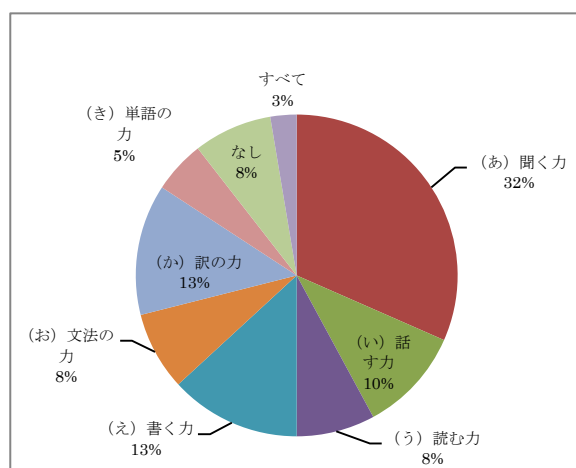


図9 英語技能の中で最も自信がある項目（検証後）

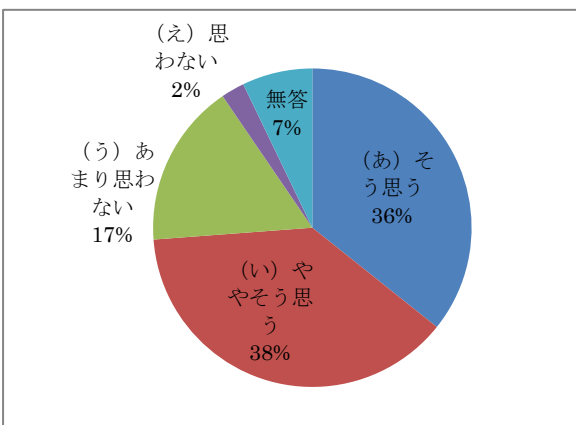


図10 話す活動は定期テストの点数に結びつくか

も間違えやすい要因であると考え、コミュニケーション活動で使った表現なので、正解者がもっといてもいい問題であったと考える。対応策として、文章を書かせたり文法問題を解かせたりして定着を図る事が考えられる。I think that～.の文も正解が3名であったので、ドリル等で復習をし、文の構成を再確認する必要がある。適切な語句を選ぶ問題において「I think that～」のthatを選ぶ問題では、14名中10名が正解していて、先ほどの並べ替えと比べるとthatの後ろが主語＋動詞の文になっている事を理解出来ていない事が原因であると考え。「I am going to～」のgoingを選ぶ問題では、11名が正解であった。またwillを選ぶ問題では9名が正解であった。この事から未来形の文の作り方はかなり定着出来ていると言える。基本文を定着させ、表現力を付ける事に弾丸インプットは有効であると考えるので今後も継続して行っていく。定期テストでコミュニケーション活動による成果が出ていると言えるので今後も継続して行っていく。

＜ 弾丸インプット ② ＞		
2 nd grade class()No.()Name()		
・じゃんけんをして、勝った方が日本語を言い、負けた方はそれを聞いて英語に直します。		
	English	Japanese
1	イットゥ ウィル ビー ハットゥ トゥモロウ It will be hot tomorrow.	明日は暑くなるでしょう。
2	ウィル イットゥ ビー ハットゥ トゥモロウ Will it be hot tomorrow?	明日は暑くなるかな。
3	イエス イットゥ ウィル ノー イットゥ ウォントゥ Yes, it will. No, it won't.	なると思う。 ならないと思う。
4	ワットゥ ワー ユー ドゥイング アットゥ ラスト ナイト What were you doing at 7 last night?	あなたは昨日の7時頃何をしていましたか。
5	アイ ワズ リーディング ア ブック アットゥ ラスト ナイト I was reading a book at 7 last night.	わたしは、昨日の7時頃は、本を読んできました。
6	イットゥ ウィル ナットゥ ビー ハットゥ トゥモロウ It will not be hot tomorrow.	明日は暑くならないでしょう。
7	アイ ウィル ビジットゥ マイ フレンドゥ ネクストゥ ウィーク I will visit my friend next week.	私は来週友達を訪ねるつもりです。

図 11 弾丸インプット

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 興味のわくような身近な話題を取り上げ、コミュニケーション活動を行ったことで、意欲的に活動に取り組む様子が見られ、ペアの会話が最初の倍の長さになったので、話す表現力がついた。
- (2) 英語が苦手な生徒もペア・グループ活動の中で教え合う事が出来るようになり、会話文の文章や時間を伸ばして発表出来るようになり表現力がついた。
- (3) 自己評価シートのコメントから「本当に海外に行きたいと思った。」「自分のことが言えた。」などの意見が出ていたので、内発的動機を促し意欲的にコミュニケーション活動に取り組んでいたと言える。
- (4) 話す活動の前の書かせる取り組みにより書く力も向上した。

2 課題

- (1) 1分間会話を続けるという目標に届かなかったので、相づちや相手の発言を受けて質問などをするなどの会話練習を繰り返し行い目標に近づけていく。
- (2) 生徒のやる気を出させるために興味があるものについてのアンケートを基にトピックを選んで取り組ませる。
- (3) グループで取り組ませる時に英語が得意な生徒をグループリーダーに育てることも大事である。
- (4) ペア・グループ活動をもっと浸透させるために、意義を確認させ継続する事が必要である。誰とでもコミュニケーション活動を行うことが出来るようになるために、簡単な活動から取り組んで徐々に慣れさせていく。

〈参考文献〉

- 大塚謙二 2015 『英語授業に悩んだら読む本』 学陽書房前
白井恭弘 2015 『英語教師のための第二言語習得論入門』 大修館書店
岡田栄司 2014 『荒れ・しらけと闘う！ 英語授業の鉄則&活動アイデア』 明治図書
卯城祐司 2013 『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店
文部科学省 2011 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料〔中学校外国語〕』
文部科学省 2008 『中学校学習指導要領 外国語』
文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説外国編』
ゾルダン・ドルニエイ著 米山朝二/関 昭典 訳 2005 『動機づけを高める英語指導ストラテジー 35』 大修館書店
高橋正夫 2001 『実践的コミュニケーションの指導』 大修館書店
大下邦幸 1996 『コミュニケーション能力を高める英語授業』 東京書籍

〈参考URL〉

リクルートマネジメントソリューションズホームページ URL
<http://www.recruit-ms.co.jp/glossary/dtl/0000000030/>